

# みやぎ復興 11月号

## GO!GO! ボランティア 復興つうしん

発行

社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会  
 宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター  
 〒980-0011  
 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目2番3号 自治会館2F  
 TEL: 022-266-3952 FAX: 022-266-3953  
 URL: <http://msv3151.c-bosai.jp/>



## 復興支援員 定例会

宮城県社会福祉協議会では、毎月1回、復興支援員の情報の共有・意見交換を目的とした定例会を開催しています。

復興支援員は県社協と各市町村社協・ボランティアセンターとのパイプ役として、ボランティアセンターの業務のサポート・調整・環境づくりを担い、また、復興支援コーディネーターや生活支援員と協力しながら被災された方の生活支援なども行なっています。時には仮設住宅や依頼ニーズの実際を把握するために現場にも足を運び、その上で外部からの目線で市町村社協やボランティアセンターの組織を充実させる提言も行ったり、活動する人たちがやりがいを持って効率的に動ける施策の提案なども心がけています。なれない業務に悪戦苦闘しながらも、各々がしっかりと目標を持って前向きに取り組んでいます。

定例会では、復興支援員として市町村社協と関わり合う中で得た情報、市町村社協の取り組み、相談された問題点などが報告されます。他地域担当者の経験や様々な知識・視点を聞くことにより、対策・解決方法を導くために活発な意見交換も行われています。

これまでのサポート実績から、復興支援員は市町村社協から頼りにされることも多く、やりがいとともに責任感も強く感じています。各市町村のスピーディな復興のために、そして一日でも早く仮設住宅で暮らす人々が自立した生活を送れるように。現場で活躍する市町村社協スタッフと同じ熱い思いを胸に、毎日活動しています。



## ボランティア活動支援業務 担当者向け研修 開催

ボランティア活動および市民活動のコーディネート及びマネジメントを担うボランティア担当業務を行っている方を対象に、ボランティアコーディネーション及びボランティアコーディネーターの役割など、基礎知識を習得することを目的とした研修会を2日間の日程で開催いたします。

### 研修内容

第1日目 平成23年12月20日(火) 10:30~16:00

「ボランティア・ボランティアコーディネーションの基礎を学ぶ」

- 場所：管工事会館9階大会議室
- 講師：NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 妻鹿 ふみ子 氏

第2日目 平成24年1月27日(金) 10:30~16:00

「復興を視野に入れたボランティアコーディネーターの役割とは」

- 場所：管工事会館9階大会議室
- 講師：NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 妻鹿 ふみ子 氏

### 詳細のお問い合わせ・お申し込み

宮城県社会福祉協議会  
 宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター  
 [担当：西塚・佐藤]  
 〒980-0011  
 宮城県仙台市青葉区上杉 1-2-3 宮城県自治会館 2F  
 Tel 022-266-3950 / Fax 022-266-3953



宮城県社会福祉協議会  
 宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター  
 市町村支援調整班 気仙沼市担当 復興支援員

## 青砥 洋一さん

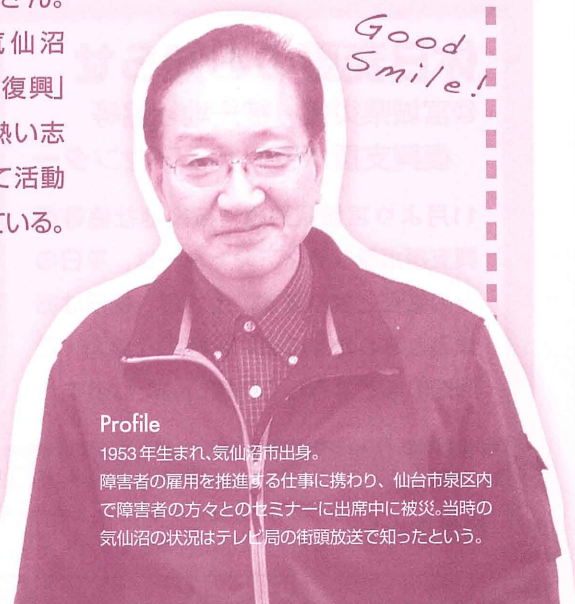
青砥さんは7月から気仙沼市担当の復興支援員として気仙沼市社会福祉協議会、ボランティアセンターに深く関わるようになった。被害の大きな気仙沼市には市社協はもちろん、これまでも数多くのボランティア団体が入り、復旧作業から生活支援的な要素まで大きな力を発揮している。各団体、行政がひとつの方向性を持って活動してくことで、さらなる復興につながるのでは、と青砥さんは考える。

「私たちの仕事は現在の被災者の生活のお手伝いというだけではなく、その後にある『自立』のためのお手伝いだと思うんです。自立のある復興のためには経済、雇用を含めたグランドデザインが必要で、社協はもちろん行政、各団体

とが連携して、それを見据えた活動をしていければ」。気仙沼出身の青砥さんらしいアプローチだ。

現在は、市社協と県社協との情報交換、調整をはじめ、市社協と行政との様々なやり取りの調整サポート、またボランティアセンターのサポートを主な業務としている。「ここで活動しているスタッフには自宅をなくしても、また、避難所や仮設から来ていただいている方もいらっちゃって。そんな環境でも、希望を持って働いている皆さんには頭がさがる思いです。気仙沼の被災者の方々、また一緒に働いている市社協のスタッフには、『必ず復興できるんだ』という気持ちを強く持ってほしい。『いい未来ができるんだ』ということを感じてほしいですね。車で片道約2時間強の距離を週に何度も往復する青砥さん。

地元、気仙沼の「真の復興」という熱い志を持って活動を続けている。



### Profile

1953年生まれ、気仙沼市出身。障害者の雇用を推進する仕事に携わり、仙台市泉区内で障害者の方々とのセミナーに出席中に被災。当時の気仙沼の状況はテレビ局の街頭放送で知ったという。

# 被災地の取り組み みやぎ〜絆〜 smile ☺

## 七ヶ浜町

「七ヶ浜に何度も来てくれるボランティアたちの熱い思い、そしてその思いから生まれるいろんなアイデアが七ヶ浜町災害ボランティアセンターの特徴です」

と話してくれたのはボランティアコーディネーターの星さん。最近ではリピーターとして参加してくれているボランティアの方々のアイデアをきっかけに「松林クリーン大作戦」が始まった。美しかった松林にはまだガレキも残っており、毎週土曜日に「来年の海開きをめざす」という目的に共感してくれるボランティアが今も数百人単位で集まってくれるという。

七ヶ浜町社会福祉協議会本部は震災直後に避難所になり、80名くらい地元の方々が避難していた。その2日後には同所で災害ボランティアセンターを開設、スペースの問題もあり3月19日には現在の場所に移転した。既存の資料も使える状態で、機能的には比較的スムーズに活動し始めることができたという。また、震災前から町内における非常時に対する意識が高く、活動では町民の皆さんと共に非常時に対する研修や訓練に力を入れていたことが役に立った。震災当初は地元の学生を中心としたボランティアが給水作業や支援物資の搬入、仕分けなど行政からの依頼に活躍。5月頃から日本、海外からもボランティアが集まり始め、復旧のために力を注いでくれた。

七ヶ浜町では11月現在、7ヶ所仮設住宅に421世帯が入居している。被災前に養成ボランティアコーディネーター研修を受けていたコーディネーターも現場に戻り、仮設住宅で暮らす被災者の支援にあたっている。また、同センターには小学校の通学路に残ったガレキの撤去や、個人宅の清掃、側溝のヘド口掃除などのニーズがまだ多く寄せられる。仮設住宅の生活支援的な要素と「半々くらい感覚」(星さん)。年内に残っているニーズを完了し、仮設住宅の生活支援に重点を置き「七ヶ浜ボランティアセンター」に名称を変更する予定だ。

「ボランティアで来てくれる方の熱い思いを無駄にしないよう、受け入れ体制はしっかり機能させている」と星さん。「最近、被災者の方に欲しい物は、って伺ったら『支援物資はもう大丈夫。今はとにかく私達のことを忘れないでほしい』という声を聞きました。ボランティアで全国から集まってきてくれた方々には、地元に戻っても思いは七ヶ浜に、被災地に寄せて欲しいとお伝えしています」。



七ヶ浜町災害ボランティアセンター  
住所：宮城県災害・被災地社協等  
復興支援ボランティアセンター  
11月より宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンターは、平日のみの業務となります。土・日・祝日はお休みとなりますので、皆様のご協力・ご周知のほどよろしくお願いいたします。

## 女川町

通年は全国でも有数のさんま水揚げ量を誇る女川町。震災の影響で今年の水揚げ量は1/10以下になってしまったが、毎年恒例の「女川町さんま祭」が10月2日に開催

され、町は復興を願うたくさんの方で賑わった。「震災が起きてからこの間、女川に足を運んで頂いたボランティアさんには、自分の目を見たこと、感じたことを、自分たちの言葉で伝えて欲しいですね。『さんま美味しいんだよ』って」と話してくれたのは女川町社会福祉協議会のボランティアコーディネーター武石久美子さん。

同協議会が災害ボランティアセンターを女川第二小学校で立ち上げたのは3月17日。「書類等何もかも流されてしまって」(武石さん)、手探り状態で活動を始めた。局長の佐々木さんを司令塔にスタッフ3人で避難所を回ってニーズを聞き歩く。地元の学生さんを中心に集まってくれたボランティアには支援物資の仕分けや、流れてしまった町役場の書類整理、アルバムの整理などで活躍してもらった。6月に場所を現在の総合体育館の前に移転。9月からはセンターの名称を「女川町復興支援センター」に移行、より被災者支援の活動にシフトしながら、集まってくれるボランティアと共に依頼ニーズに合わせた対応も行っている。

現在、女川町には町内外に30ヶ所の仮設住宅があり1,235世帯が暮らしている。生活支援相談員9名で担当地域を割り振って訪問、特に平日には集中してシフトを組んで出向く。11月には消防署の指導のもと防災訓練を5ヶ所の仮設住宅で予定するなど、今後もイベントなどの案内や支援物資の供給を通して、それぞれの世帯とコミュニケーションを図り、孤立がないか、などの住民からのSOSを察知していきたいと考えている。同センターでは現在、生活支援相談員の活動を中心にした3月までの短期計画を作成している。仮設住宅の長期化が予想される状況を見据え、被災者の自立に向けてどのようにサポートしていくかを具体的に示していこうという試みだ。武石さんは言う。「たくさん物や食べ物もいただいて、被災しなければ出会えていない方々もたくさんいらっしゃった。私たちは言いようのない感謝の中で今を生きています。でも、結局は自分たちで生活していかなければ。私たちが何をしてあげられるか、ではないんですよ。いつでも一緒に寄り添っていることで、生きるハリを作ってあげられたら、と思っています」。



女川町復興支援センター  
住所：牡鹿郡女川町女川浜大原 190  
(女川町総合体育館前)  
TEL：0225-25-4911

## 気仙沼市

広範囲で甚大な被害に見舞われた気仙沼市。11月現在、87ヶ所の仮設住宅に3,303世帯が入居、避難所も4ヶ所(一次、二次含め)設置されている。「仮設住宅の集会所

を中心に『お茶っこ飲み会』をコーディネートさせてもらっています。住民の要望に合わせて寄り添う形でコミュニケーションを図れるように心がけています」と話してくれるのは気仙沼市社協ボランティアセンター所長の鈴木美紀さん。同センターでは生活支援相談員34名、災害ボランティア・復興支援コーディネーター9名を中心に地域支援班、ボランティアコーディネート班を組織。仮設住宅の生活支援と共に、避難所から仮設住宅への引越のお手伝いなどが、現在の活動の中心になっている。

震災では気仙沼市社会福祉協議会本所も津波で被災した。同協議会が運営・実施する各種サービスの利用者さんや関係者、役職員の安否確認などをしながら、ボランティアセンター立ち上げを準備。市と設置場所の選定を行い、現在の場所に「災害ボランティアセンター」として立ち上げたのが3月28日。開設当初から避難所班を設け、避難所での被災者の生活をサポートするための活動を行うと同時に、集まってくれるボランティアの力を借りて、ガレキ撤去や拾得物の整理などの対応もしてきた。仮設住宅が建ち始め、被災者の生活支援としての方向性を明確にし、8月1日からは「気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター・愛称(ウイズ)」と名称を変更した。

気仙沼市では現在も30を超えるNPO、NGO団体が活動している。被災者の生活支援の内容を充実させるため、そしてスピードある復興のためには各組織間の連携が必要。様々な局面でのバッティングを防ぎ、また効果的な被災者支援のためにミーティングに参加し、情報交換を心がけているという。インターネット上のスケジューラーを利用して、イベントやサロンの情報をシェアする工夫も取り入れている。

「笑顔を見るのがイチバンですね。新しい地域で知らなかった人たち同士で、助け合いながら、お互いに尊重しあいながら、こういう風に暮らしていますよ、と笑顔でお話しされると、ああ、よかったな、と思います」と鈴木さん。これからの課題として、同センターの冬場対策と民間の住宅に避難されている「みなし仮設住宅」にお住まいの方々の支援をあげてくれた。そのために、現在「みなし仮設住宅」の状況や実態を知るための情報把握に務めているという。

「笑顔を見るのがイチバンですね。新しい地域で知らなかった人たち同士で、助け合いながら、お互いに尊重しあいながら、こういう風に暮らしていますよ、と笑顔でお話しされると、ああ、よかったな、と思います」と鈴木さん。これからの課題として、同センターの冬場対策と民間の住宅に避難されている「みなし仮設住宅」にお住まいの方々の支援をあげてくれた。そのために、現在「みなし仮設住宅」の状況や実態を知るための情報把握に務めているという。



気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター・ウイズ  
住所：気仙沼市東新城 2-2-1  
(気仙沼市民健康管理センターすこやか)  
TEL：0226-22-0722

## 66 インフォメーション

### 休日変更のお知らせ

@宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター

11月より宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンターは、平日のみの業務となります。土・日・祝日はお休みとなりますので、皆様のご協力・ご周知のほどよろしくお願いいたします。

## 66 イベント情報

### クリスマス会

@亙理ささえあいセンター「ほっと」

開催日:12月15日(木)

場所:中央公民館  
バイク形式でお食事会をします。アルティファータによるカット&メイクも予定しています!!  
ぜひご参加下さい!!

### 民生委員主催 バザー

@多賀城市社協復興支えあいセンター

開催日:12月7日(水)

場所:桜木北区集会所  
民生委員主催によるバザーが開催されます。在宅被災者のためのバザーですので、ぜひご来場ください。

## ボランティア募集

南三陸町災害ボランティアセンター  
募集中 ご支援をお願いします!!

南三陸町では瓦礫撤去、片付け、清掃、写真洗浄、物資仕分けといった作業のニーズがあり、ボランティアがまだまだ不足しています。ご協力・ご支援をお願いします!!

ボランティア登録受付  
申込受付時間：8:30～21:00  
TEL：0226-46-4088